

PTA 研修旅行で名古屋大学情報学部を訪問しました

令和6年11月6日(水)

11月6日(水)に行われた本年度のPTA研修旅行で、名古屋大学情報学部を訪問しました。

まず参加したPTAの方たちは、秋晴れの下、豊田講堂前の



芝生広場で集合写真を撮影しました。

その後、2021年に津島高校の生徒が知多半島で行った地層調査の記録がある「古川記念館 名古屋大学博物館」を左手に見ながら、全員で文系学部西側にある情報学部棟に移動しました。



情報学部事務長の山田様と庶務課長の杉浦様のお出迎えを受けつつ、講演会場に入ってびっくりしました。そこで名古屋大学オリジナルグッ

ズが入ったトートバッグがひとり一人に渡されたのです。これによって参加者の緊張感が一気にほぐれたことは言うまでもありませんでした。



講演をしていただいた学部長の北教授は名古屋大学情報学部の成り立ちと特徴を、わかりやすく説明してくださいました。その中で、

・情報学部は文理の境界を越えた新学部であるこ



と※できてから8年目

- ・ノーベル賞の発表の時は、名古屋大学全体が、先輩方の研究が表彰される可能性があるため待機していること
- ・入試情報



等が、スライドを使って説明されました。

その中で本校の取組に大きく関わることが、2点ありました。ひとつ目は情報学部は文系の生徒も理系の生徒もどちらも所属しており、その融合が新しいアイデアを生み出すきっかけになるという発想で学部運営をしているということです。これは本校が目指す文理融合型の教育と共通する考え方であることがわかりました。ふたつ目はシンガポール国立大学に1学年150名の学生のうち、約30名が8日間の研修旅行に参加することでした。名古屋大学情報学部は同大学と協定を結んでおり、大変リーズナブルな価格で研修旅行に行けることは、国際探究科で国際的な活動を充実させていく本校にとって魅力的な取組に感じました。

講演会の最後に参加者から「文系の生徒にとってプログラミングを理系の生徒と一緒にやると不利ではないか？」という質問が出ましたが、北教授からは「得意でないことでも知っていることが大事で、そういう



人はプログラミングが得意な人材と他の分野が得意な人材をつなぐコーディネーターの役割ができるようになって欲しい。」というアドバイスをいただきました。

最後に参加者全員で北教授と参加者全員で記念撮影をして、講演会を終了しました。

その後、同じ会場をお借りして研修旅行に本校卒業生としてサポートに入ってくれた、文学部4年生の後藤駿介さんのお話を伺いました。

後藤さんは、卒業論文作成の合間を縫って手伝ってくれました。お話では、

- ・名古屋大学の敷地面積はディズニーランドの6倍もあること

- ・理系の生徒は自転車で移動しないと校舎の移動が間に合わないこと

- ・高校と大学の違い

- ・高校時代に親から言ってもらってうれしかったこと



などを、自身の経験を踏まえて、話してくれました。

参加者からは「英語が苦手な人があと1年と少しで何をすればよいか？」や「高校時代にどんな活動をしていたか？」や「部活動が終わった後勉強に気持ちを切り替える方法は？」という質問が出ました。そのひとつ一つに誠実に答えていました。

後藤さんのエスコートで、参加者は新築された北部購買を訪れました。中には名古屋大学オリジナルの商品があり、記念に購入する方もみえました。

滞在時間としては決して長くはありませんでしたが、中身の濃い大変有意義な活動にな

ったと思います。今後も津島高校は、さまざまな活動を通して、探究的な学びをすすめて
まいります。今後とも積極的な参加を待ちしています。

教頭 金澤 学

